



## 【今号の1枚】

「では、手を洗ってみよう！」地域の集会所から青年リーダーたちの明るい声が聞こえます。新型コロナウイルス 感染対策の一環として、昨年11月にエジプトで新プロジェクトがスタート。各地で選ばれた100人の青年たちが、エジプトの子どもたちに「手洗い」と「うがい」を浸透させていくプロジェクトです。「小さいころから手洗いが当たり前」の日本をお手本に、手洗いやうがいの大切さを子どもたちに考えてもらう日本の「特活」の要素を盛り込みながら、丁寧に指導していきます。「早くお父さんに教えたい！」学んだ子どもたちから家族や友達にも伝わっていきます。



現在までに各地の子ども2,000人への手洗い指導を行いました。目標は6,000人。連日40度を超える厳しい暑さの中、青年リーダーたちが今日も頑張っています。

引き続き、皆様からの手洗い啓発活動の写真を大募集いたします！

(写真提供：エジプト事務所)



## タンザニア 150万人にリーチ?! ナショナルスタッフ主体の手洗い運動推進



事務所の手洗い運動タスクチーム



現地新聞に掲載した手洗い漫画

JICA タンザニア事務所では、健康と命のための手洗い運動に協力すべく、事務所内の各班からメンバーを集めて手洗いたスクチームを結成し、各事業への手洗い啓発素材の普及、広報活動、所内のコロナウイルス感染防止対策等の活動を行っています。

活動の手始めに行ったのは事務所内向けのセミナーです。ナショナルスタッフが中心となり、コロナウイルス対策の概略、車内消毒の実習（ドライバー向け）と併せ、医療施設における手洗いのグッドプラクティス、正しい手洗いの方法やタイミングを紹介しました。参加したスタッフからは、得られた知識や印刷した井上きみどりさんの手洗い漫画を家庭内やコミュニティ内で共有したいとの反応があり、好評でした。さらにこの際、ナショナルスタッフが主体となって考えたスワヒリ語のスローガン「Tokomeza Magonjwa kwa kunawa mikono mara kwa mara」（英訳：Let's get rid of diseases by washing hands regularly）を発表し、皆がしっかりと手を洗い、事務所一体となってコロナウイルス対策を進めていこうという機運が向上しました。

上記スローガンの下、手洗い啓発素材の普及も進めています。特に、スワヒリ語に翻訳された手洗い漫画を現地新聞4紙に掲載した際には、内1社のみで当日中に600件以上の問い合わせがありました。4紙合計の発行部数は約15万部、新聞社によれば、大体1部あたり平均して10人くらいが読むだろうとのことで、150万人程の読者にリーチした可能性があります。農村部も含めて全国の読者からの厚意的なコメントや反響が多数あったとのこと。他にも、事務所では各事業のイベントやワ



無償資金協力事業の現場での手洗い啓発  
 (©三井住友建設株式会社)

ークショップにおいて、スワヒリ語版を中心に 5000 部の用意がある手洗い漫画の配布等を行い、カウンターパート等に対する手洗い啓発を進めています。

これらの活動をしていると、大切なことを思い出させてくれてありがとうといった反響が多くあり、手洗いはタンザニアの人々の琴線に触れるのだらうと感じます。今後ともより多くの人に手洗いの大切さを届ける活動を行っていきたく思います。

(タンザニア事務所 浅見達也)



## 東ティモール 手洗い劇 動画の発信

保健系隊員とコンピューター技術隊員で作成した手洗い啓発動画「[Fase liman ho sabaun](#) (現地語訳:石けんで手を洗おう)」を、東ティモール事務所 Facebook を通じて発信しました。

この動画は約 400 名を動員した東ティモール JOCV 派遣記念イベントで披露した「手洗い劇」を動画にしたものです。元々、「Fase liman ho sabaun」は先代隊員が作成した手洗い啓発の替え歌でした。そこに、新しく手洗いの動作を交えたダンスを取り入れ、劇中歌としてイベントで披露しました。この動画掲載のきっかけは、「Fase liman、発信しませんか?」という東ティモール隊員 SNS グループへのメッセージでした。COVID-19 の拡大により、現地隊員も帰国を強いられる中、日本にいながらも現地の人たちに何かできないか、帰国・派遣待機隊員の思いが一つとなり動画作成・掲載と至りました。歌とダンス部分を切り取り、現地語の字幕をつけた動画は 37 万回再生されました。

人口約 120 万人の小さな国：東ティモールでは、記念イベント、SNS を通じて、「Fase liman ho sabaun」を少しでも知ってもらえたのではないかと考えています。



手洗い劇の様子 (終了後、参加者に  
 手作り石鹸を配布)



「Fase liman ho sabaun」の  
 歌ダンスの様子



イベント時の外観

注：イベントは 2019 年 5 月のコロナウイルス感染症拡大前に実施されました。

(東ティモール事務所 横堀 慎二)



## プロジェクト研究「水供給・衛生分野の新型コロナウイルス対策の教訓と必要な支援方策の検討」より成果報告 (その1)

実施中のプロジェクト研究「水供給・衛生分野の新型コロナウイルス対策の教訓と必要な支援方策の検討」より、手洗いに関するこれまでの成果を、プロジェクトメンバーの株式会社地球システム科学門上綾さんに今号と次号の 2 号に亘り、ご報告いただきます。

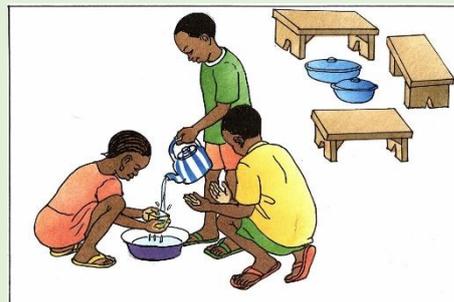
新型コロナウイルス感染症 (以下 COVID-19) の蔓延により、予防対策の有効な手段として水と石鹸を用いた手洗いの重要性が世界中で再認識されています。しかし、自宅に水と石鹸を備えている基本的な手洗い施設にアクセス出来ない人は世界人口の 40%にあたる 30 億人に上り、サブサハラ地域に至っては、その人口の 75%と報告されています (WHO/UNICEF<sup>1</sup>)。そのような背景の下、現在、「プロジェクト研究：水供給・衛生分野の新型コロナウイルス対策の教訓と必要な支援方策の検討」において、手洗いと、手洗いに関する行動変容の促進要因について調査を行っており、その中で分かったことを 2 回に亘って報告します。第 1 回目は、手洗いの留意点に関しての報告です。

手洗いは水と石鹸を用いることが重要とされていますが、水と石鹸を備えた手洗い施設を利用できない環境下ではそうはいきません。事実、家計への負担、石鹸を置いたままにして子供等により遊ばれたり盗まれたりするという無駄になるリスクや、石鹸を取り出す時間と不便性、推奨される手洗い方法（泡立てて 20 秒継続する）や 1 日に必要なタイミングで何度も手洗いする時間が無いことを理由として、低所得国では石鹸を用いた手洗いが稀であることが多く報告されています（Zeitlyn 1991<sup>2</sup> : Curtis et al. 2009<sup>3</sup> : Scott 2007<sup>4</sup>）。手洗いには、水と石鹸の両方が絶対に必要なのでしょうか？

手洗いの COVID-19 感染予防の効果に関する科学的根拠は発表されていませんが、手や指に付着しているウイルスの数は、流水のみによる 15 秒の手洗いで約 1%まで減らせることが出来るという検証結果が報告されています。従って、水のみでの手洗いであってもある程度は有効であることが分かります。しかし、ハンドソープで 10 秒または 30 秒もみ洗いし、流水で 15 秒すすいだ場合は、約 0.01%にまで減らせることが報告されていますので（森 2006<sup>5</sup>）、やはり水と石鹸を用いた手洗いがより強く推奨されます。

その他の手洗いの留意点として、水質、水量、乾燥方法も重要なポイントです。手洗いの水質は、石鹸を用いた正しい手洗いを実施する場合、飲料水の基準を満たす必要はなく、中程度の糞便汚染のある水であっても手から病原体を除去するのに効果的であるとされていますが、出来る限り良い水質、最低でも改善された水源（外部からの汚染、特に糞便汚染に対する予防措置を施している水源）の水での手洗いが推奨されています（Verbyla et al. 2019<sup>6</sup> : WHO and UNICEF 2020<sup>7</sup> : CDC 2000<sup>8</sup>）。水量に関しては、石鹸を用いた正しい手洗いを実施する場合、最低 0.2L の水量でも対応可能です（PAHO 2020<sup>9</sup>）。また、バケツなどに溜めた水で手を洗うと反対に病原菌が手についてしまうので、流水での手洗いが重要です。洗い残しが多く認められる部位（親指の付け根や指先）も、拭き取りによる除菌が可能です。手洗い後は、自然乾燥でもいいので、手を乾かすことが大事です。

第 2 回目は、手洗い行動の習慣化に関して報告します。



適切な手洗い方法を示したイラスト  
(PHAST 手法 : 参加型アプローチによる  
衛生行動と環境衛生の変革を促す手法)



石鹸を泡立てて手を洗い、  
やかんからの流水で手をすすぎます

#### 【参考文献】

- 1 WHO/UNICEF (2019) 'Progress on household drinking water, sanitation and hygiene 2000-2017. Special focus on inequalities'
- 2 Zeitlyn S, Islam F (1991) 'The use of soap and water in two Bangladeshi communities: implications for the transmission of diarrhea', *Reviews of Infectious Diseases*, 13 (4), 259-264
- 3 Curtis VA et al. (2009) 'Planned, motivated and habitual hygiene behaviour: an eleven country review', *Health Education Research*, 24 (4), 655-673
- 4 Scott B et al. (2007) 'Health in our hands, but not in our heads: understanding hygiene motivation in Ghana', *Health Policy Planning*, 22 (4), 225-233
- 5 森功次ら (2006) 'Norovirus の代替指標として Feline Calicivirus を用いた手洗いによるウイルス除去効果の検討', *感染症学雑誌*, 80, 496-500
- 6 Verbyla ME et al. (2019) 'Safely Managed Hygiene: A Risk-Based Assessment of Handwashing Water Quality', *Environmental Science & Technology*, 53 (5), 2852-2861
- 7 WHO and UNICEF (2020) 'Water, sanitation, hygiene, and waste management for SARS-CoV-2, the virus that causes COVID-19: Interim guidance'
- 8 Centers for Disease Control and Prevention (2020) 'Show Me the Science - How to Wash Your Hands'  
<https://www.cdc.gov/handwashing/show-me-the-science-handwashing.html> (2021 年 1 月アクセス)
- 9 PAHO (2020) 'Handwashing while conserving water', <https://www.paho.org/en/news/12-5-2020-video-paho-barbados-psa-handwashing-and-saving-water-during-COVID-19-pandemic> (2020 年 12 月アクセス)

(プロジェクト研究「水供給・衛生分野の新型コロナウイルス対策の教訓と必要な支援方策の検討」 門上 綾)



本ニュースレターに掲載・共有したい記事・写真・情報等を随時募集しています！

①配信/配信停止の希望、②記事掲載の希望、③本メールマガジンの表示不具合などのほか、ご不明な点やご要望、ご感想がございましたら、下記の編集・配信担当支援スタッフまでご連絡ください。

地球環境部 JICA 健康と命のための手洗い運動事務局

Web サイト <https://www.jica.go.jp/activities/issues/water/handwashing/index.html>

[Handwashing@jica.go.jp](mailto:Handwashing@jica.go.jp)

